

総務企画委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程 平成29年12月14日（木）

◆調査先・調査内容

①九州旅客鉄道株式会社（福岡県福岡市博多区博多駅前）

調査内容：九州北部豪雨による被災JR各線の復旧計画及びスマートサポートステーション（駅の無人化）計画について

不通となっている久大本線の光岡駅－日田駅間の運転再開時期は、平成30年7月中になると発表があった。一方、日田彦山線は添田駅－夜明駅間が壊滅状態のため、多額の復旧費と運行採算性の問題が浮上しており、存続できるかどうかが大きな課題となっている。

JR九州は、日豊本線の牧駅－幸崎駅間及び豊肥本線の中判田駅－滝尾駅間をSmartSupportStation（以下、SSSという）とし、来年3月に牧駅、高城駅、鶴崎駅、大在駅、坂ノ市駅、中判田駅、大分大学前駅及び敷戸駅の8駅についての駅員配置の終了を検討している。

このため、次の事項について要望書を提出し、課題について意見交換した。

- 1 久大本線の早期復旧並びに日田彦山線の鉄道での早期復旧を図ること。
- 2 大分県内へのSSS導入計画については、利用者の安全性・利便性、本県の地方創生等の観点でマイナスの影響が大きいことから、本計画を再考すること。



②国土交通省九州運輸局（福岡県福岡市博多区博多駅東）

調査内容：九州北部豪雨及び台風第18号による被災JR各線の復旧への支援について

久大本線の光岡駅－日田駅間の運転再開時期は平成30年7月中である。一方、日田彦山線は添田駅－夜明駅間が壊滅状態のため、多額の復旧費と運行採算性の問題が浮上しており、存続できるかどうかが大きな課題となっている。

またJR九州では日豊本線の牧駅－幸崎駅間及び豊肥本線の中判田駅－滝尾駅間のSSS導入及び牧駅、高城駅など8駅の無人化を計画しているが、これは利用者の利便その他公共の利益を阻害するものである。

このため、次の事項について要望書を提出し、課題について意見交換した。

- 1 久大本線の早期復旧並びに日田彦山線の鉄道での早期復旧が図られるよう、国はJR九州に対し全面的に支援すること。
- 2 JR九州において計画されている大分県内へのSSS導入及び駅無人化については、利用者の安全性・利便性、本県の地方創生等の観点でマイナスの影響が大きいことから、本計画を再考するよう、国はJR九州に対し指導すること。

